
魔法少女リリカルなのは～チートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみよう～

姫-hime-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜チートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみよう〜

【Nコード】

N6644R

【作者名】

姫-hime-

【あらすじ】

友人と旅行中、テンプレ的に子供を助け転生するが、

神はいないだと？

転生するのはどこ？

魔法少女リリカルなのは？

原作介入してやるぜ、

チートがないだと？

無理だ 死んでしまおう

介入は諦めて人生二周目プレイ楽しんでやるぜ！

————————注意————————

こんな感じに小説を書くのは小学生以来ですので、文の構成は小学生以下のレベルで暇つぶしに書くような作品ですので、御理解のほどお願いいたします。

ちなみに処女作品です

くチートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみようく（前書き）

再び申し上げますが

小説を書くのは小学生以来で処女作品なので、見づらいかも知れませんが

少しでも、読者の皆様が楽しめたら幸いです

くチートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみようく

突然だが、俺の名前は柊 水月

日本に住む普通の高校生で男

好きなものは、甘いもの（フルーツよりもケーキのような甘さ）

嫌いなものは、体を動かすこと

たが、太ってはいない

まあ自己紹介はこのくらいにして、今の俺の状況を把握したいと思う

いろいろな言い方はあるが一言でいうと真っ白な空間にいる（精神と時の部屋のな）

こんな所にいる理由がさっぱりわからないので（読者のに）早速だが順々に思い出すとしよう

――――回想――――

それは互いに受験勉強に忙しくなる前の思い出作りに沖縄に旅行中のことだった

水『んー、二泊三日だけど今回の旅行はなかなか楽しめだよなあ』

友人A「まあな、何たってあの有名なリゾート地だからな」

B「まあそうだけど…」

水『何だよなんか不服そうじゃねえか、なんか気に入ら無いことでもあんのか?』

B「いや気に入らないってことも無いんだけどさ、なんつーかさ」

A「何だ飛行機にでも酔ったか?」

B「いや、ただ」

A＋水「『ただ?』」

B「せっかくのGWに男三人で旅行はむなしいかなあってね…」

こ、こいつ、あえて忘れていたことを

水『まっ、それは帰宅部で彼女もない自分自身を恨めとしか言えねーな』

B「いきなりなんかゴメンな、あとでなんか奢るから」

A「ラッキー、んじゃ昼飯ゴチになります」

B「……………コンビニ弁当でok?」

ふっそんなこと

○『却下だ（笑）』

— — — — —

そのあと妥協案でラーメンを食べた所までは特に問題はないいな、
そこからの問題だな

— — — — —回想再び— — — — —

B「くっ、なんでだよ替え玉ぐらい自分で出せよな」

A「ゴチになりました（笑）、しかしながら奢りで食べるラーメン
は格別だ財布を気にすることもなくトッピングし放題それはまさに
バイキング、なあそう思うよな水月？」

水『……………』

A「どうした？」

水『ん？ あぁゴメン、あれを見てた。』

そう言いながら俺は指を道路の向こうを指した

A「危ねえなー道路の近くで遊ぶなよな」

B「なんか二次小説っぽい風景だな」

A「俺達の誰かが子供を庇って転生コースってか」

B「ないない」

A「ですよね」

俺はそんな二人の会話を余所に子供の方を見ていた、嫌な予感を胸にするのだ

A「お、おいあれヤバいんじゃないの」

B「逃げ出した方がいいよな」

するとだ友人二人が騒ぎ出した、トラックでも突っ込んできたか、まさかなありえないなそう思い二人が指さすほうを見ると

水『マジかよ、なんちゅうテンプレ』

そのまさかトラックが突っ込んできやがった

ふと、子供のほうを見ると

水『おいおい、気づいてねえとか有りえんだろ』

どうするよ俺「行く」か「行かない」か
答えは決まってる

水『死んだら転生よろしく頼むぜ神様』

「行く」
だ

[illegible]

思い出した、確実にあれだな、しかしテンプレ的には神様が居るはずなんだが……

何か居る気配がないな

居ないもんはしゃあないな、いつの間にかでっかい扉もできてるし

これは入るべきだよな
いや、もう少し粘るか？

よし覚悟はできた、

天国
でも

地獄
でも

転生
でも

何でもこい！

できれば転生で

転生ならリリカルかネギ魔かゼロ魔か恋姫辺りが主流かな、できればリリカルがいいよなDVDみて最近ハマったし……何よりシグナム姐さんに会いたいな

どの世界でもいいからチートが欲しかった。

そんなことを考えながら扉のなかへ足を進める俺であった。

————————————————————

Side? ?

やっと思ったか、意外と早かったかな？

最近の奴は

神の法によってここに来るものに対して死因は我々の所為としか言えないことを好いことにチートを寄越せだのイケメンにしろだの何様だ!!

チート力もタダじゃ無いんだ、無限の剣製とかは高いんだ!生活がカツカツに成るんだ!神の給料は安いんだ!なのになのにいいいい!!!!!!

<神 COOLDOWN>

よしっ！スッキリした

今の我は気分が良い何かチートをプレゼントを贈っておこう

さあ この力を使って原作破壊するのもよし人生二周目を楽しむのも良いだろう

全て君の人生だ

だが、その道は楽ではない

さて之にてお別れだ最後にこの言葉を送ろう

「これよりキミノセカイは一変する」

くチートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみようく(後書き)

お読みいただきありがとうございます。

何かアドバイスなどありましたら
ご報告お願いします。

設定

設定

名前 ヒイラギ ミツキ
柊 水月

性別 男

年齢 14歳 職業 中学三年生

身長 167cm 体重 53kg

好きなものは、甘いもの（フルーツよりもケーキのような甘さ）

嫌いなものは、体を動かすこと
だが、太ってはいない

リンカーコア 有無不明

魔力 不明

スキル

チート

詳細不明

※チート力 Lv79

鈍感（弱）

相手の気持ちに気づいているつもりになりその本心には気づかない

ギャルゲー脳

たまに脳内に選択肢がでてくる

それにより物語が変わるかは不明

幸運又はご都合主義

気づかないうちに都合の良いように進む

※チート力とは

そのチートのレベル高いほど値段が高いらしい

基準は凡庸性 50 純粹にその力のレベル50によって決まる

例

イケメンにしてくれ

凡庸性 47 レベル 2

計 LV49

無限の剣製

凡庸性 25 レベル 41

計 LV66

ギアス（ルルーシュ）

凡庸性 43 レベル 43

計 LV86

なでぽ にこぽ

凡庸性 44 レベル 5

計 LV49

第1話 転生って意外と楽じゃない（前書き）

あらすじ

柊水月Side

事故にあう⇒不思議空間に復活（神はいない）↑これ重要⇒扉にIN
神Side

柊水月をやり過ごす⇒ストレス発散⇒チートプレゼント

こんな感じで大丈夫か？

第1話 転生って意外と楽じゃない

第1話 転生って意外と楽じゃない。

と、まあ、俺は転生したがチートが無いなら原作介入は流石に思
い諦めてたんだが

『どの選択肢を選んだらこうなる？』

？「どうしたん？急がんと遅刻やで」

諦めていたんだが、神は俺の事がどうやら嫌いらしい
幸か不幸か俺は＜魔法少女リリカルなのは＞の世界に転生したら
しい。

チートがないのにどうしろと

？「聞いとるんか？」

この関西弁の女は、お分かりの通り「夜天の書」の主で有名な「八
神はやて」その人だ……

は「あーもう はよ行かんとなのはちゃん達も待たしとるんやで」

八神はやてとの出会いは、そーだな、八神がまだ足が不自由になる
前にちよつとしたきっかけで知り合い、魔法について知った（転生
してから）のは丁度「闇の書事件」の前にヴォルケンズに協力者と
して聞いたんだが

その時の話しはまた今度にするでしょう

そして現在14歳になり中学三年生になったばかりだ

Sideはやて

なんや水月のやついきなり立ち止まったと思えばぶつくさいいよって

は「水月？起きとるか？　はよなのはちゃん達とこ行かんと遅刻してまうで」

水『……………』

あかん　こないなつた水月はまさに梃子でも動かん　ほっというて行こう

あつ、もうこないな時間やいそがな

Side End

さて現状報告も終わったし

水『そろそろ行くか？八がm？あれ、あいつどこ行った？』

い、いねえ、どこ行った

♪♪とくきを越え刻まれた悲しみの記憶♪♪↑着メロ

水『メール？』

は「ほー、ほななんでぼーっとしとったんや」

水『あれはだな、ほらあれだ、読者の皆様に現状報告をだな…』

は「……………」

な「……………」

フ「……………」

な、なんだこの空気

水『おい、どうした?』

な「いや」

フ「なんて言うか」

は「大丈夫やで中二病は治る病気やから」

水『ちがう、俺は中二病じゃない』

な「中二病?」

フ「はやて、その中二病だっけ?それはどんな病気なの?」

水『ちょっ、二人とも俺は「ええかフエイトちゃん中二病ってのは簡単に言えば」おい待て』

は「なんやねん、うちは今からフェイトちゃんに知らない世界を教えてやらなアカンっちゅううちの使命を邪魔せんといてえな」

はやては手をワキワキさせながら燃えるように言い出した

水『ワキワキをやめろ……っーか、そんな使命捨てちまえ、だいた
い俺が中二病ならお前はあれか、魔法少女（笑）』

は「（笑）ってなんやねん、（笑）って」

水『（笑）で十分だろ、もしくは自称魔法少女、高町やハラオウン
は何となく似合うから良いけど、はやてお前は……っふ』

は「鼻で笑うな」

水『別に笑ってねえよ、どっちにしろこの歳で魔法少女はねえ……』

は「好きで魔法少女名乗ってるわけちゃうわ、このアホンダラ……！
」

水『アホンダラとはなんだアホンダラってやるか？ん、この貧乳！
』

は「あ、あかんそれだけは言うたらあかんかったのに……」

やっべ、地雷踏んだかも

な「はやてちゃんから黒いオーラが」

フ「この魔力オーバーSランク」

は「ど頭にきたで、泣いて謝る覚悟はできてるな」

水『やるか？いいぜ買ってやるぜ、そのケン「朝からうるさいのよあんたたちは」ツグヴェ』

フ「だ、大丈夫、水月？」

な「やり過ぎだよアリサちゃん」

ア「ハロー、三人とも、こいつにはこれぐらいが丁度いいのよ、すずかもそう思うでしょ？」

す「私は、別に…」

は「せやで、なのはちゃんこれぐらいが丁度ええねん」

す「だめだよ二人とも仲良くしなきゃ」

水『おいこら、そのツンデレいきなり後ろから殴るか？普通。それにその狸怯んでるすきにボディীবローしやがって』

ア「ツンデレいーな、アンタが騒いでるからアンタが悪いのよ！」

は「せやアンタが悪い。それにうちは貧乳呼ばわりされたことは忘れへんで」

水『っるせーよこのダブル貧乳』

は「一度ならず二度までも」

ア「貧乳ですって」

じ、地雷再びだと

水『お、落ち着け二人とも、流石に言いすぎた謝るよ。な、話せばわかる、そうだろ?』

は「それを言って助かった者はおらんで」

ア「取り敢えずアンタは」

は& a m p;ア「一回死んどけー!!!!!!」

水『ヘグラバ!』

ああ時が見える

フ「大丈夫? 水月?」

ア「ツフン、フェイト、そんなやつほっとけばいいのよ、ワタシのことをひ、貧乳呼ばわりしたんだから」

は「テメーの敗因はただひとつ、テメーはうちらを怒らした」

フ「けど……」

水『いや、大丈夫だ、問題ない。やさしいなハラオウンは、嫁に欲しいよ』

フ「よ、嫁」

ア「またアンタは」

水『暴力反対、Love & amp; peace. 非暴力 不服従』

す「最後のは違うような」

な「にゃはは、仲良しだね三人とも」

絶体絶命大ピンチその時だ

先「はーい、出席とるから席に戻って」

ア「っち、仕留め損ねた」

は「先生に感謝するんやで水月」

何とか先生に命を救われそれぞれ席に戻った

けどあいつらは固まってるんだよな、イカサマか？

すると前の席のやつが話しかけてきた

ちなみに俺の席は窓側の一番後ろ

？「おい柊」

水『ん？あーゴメンまだ名前覚えて無いんだ』

祐「俺か、俺の名前は東野 祐夜 席の前後の好だ仲良くしようぜ」

そう言って握手をする積もりなのか右手を出してきた

水『ああよろしく頼む、いつ』

な、なんだいきなり

祐「この中学いや、この町の中学生の中でTOP10に入るであろ
う五人と朝からイチヤイチヤとしやがって」

水『いやボディーブロー喰らってたよな、俺』

祐「モテない男の僻みだ諦めろ」

なんだよそれ

水『なんでも良いけど……』

んー 眠いな

寝よう

祐「お、おい、まだ1時間目だぞ」

なんか東野が言ってるけどもうだめ

大変そうだけど楽しめそうな一年になりそうだな

?話End

第1話 転生って意外と楽じゃない（後書き）

本編に入ってたけど正直難しい……けど頑張りたいと思う

第2話 新たなる出会い それなんてギャルゲ？（前書き）

？話のあらすじ

転生完了⇒魔法少女と友人？何かフラグたてたか？⇒友人が増えた
⇒睡眠学習

題名に意味は特に無い

第2話 新たなる出会い それなんてギャルゲ？

第2話 新たなる出会い それなんてギャルゲ？

ゆさゆさと誰かが俺を揺さぶる、誰だ？

？「水月くんもうお昼だよ、早く起きるの」

水『ん？……高町か』

な「ん？高町かじゃないの 朝からずっと寝てるなんて、どういうつもりなの？」

水『いや、深夜にやってた、「ネットで話題のスイーツベスト10」をみてたからな、他の奴らは？』

な「みんな、お昼食べに屋上に行ったよ」

水『ふーん、ならなんでお前はここに居るんだ？』

な「そ、それは、そのー」

水『その？』

高町の真剣な表情

俺が高町か分からないが固唾をのむ音が聞こえる

そして高町が口を開いた

な「……お弁当忘れちゃったの」

なんだよそれ

水『珍し……くもないな、お前は魔法以外はダメダメだしな。』

な「もー!! ほっというてほしいの、そんなことより食堂の使い方を教えて欲しいの」

水『それは別にいいけど、この時間だと……殆ど売り切れてるぞ』

な「……なん……だと……」

水月くんが起きないからお昼ごはん食べ損ねちゃったの!! どうしてくれるの!!」

水『どうしてくれるのって言われてもな』

そう言って俺は鞆から弁当を高町に差し出した

な「それは？」

水『昼飯忘れたんだろ? やるよそれ』

高町の目はその瞬間、星の様にきらめきだした

な「けど水月くんのお昼ごはんはどうなるの？」

………

水『……高町まずはよだれを拭いてから言えよ、まっ、食堂で誰かから分けてもらおうさ』

な「そうなの？ ありがとうなの」

そう言い高町は教室を出て行った
さて

水『食堂にでも行ってみるか』

――食堂――

水『やっぱり込んでるな、どっか空いてないかな』

やっぱりこの時間帯は何処も埋まってやがる

？ 「づっきー」

水『づっきーと俺を呼ぶな』

誰だづっきーなんてふざけた名前と呼ぶ奴は……一人しかいないな

水『マリア・スプリース』

マ「はーいマリア・スプリースで☆す。そんなことより席空いてるよ、探してたんでしょ？」

水『そうだけど、いいのか一人って訳じゃないだろ』

マ「だいじょぶみんないい子だから、ね（ハート）」

ね（ハートじゃねえだろ、まあお言葉にあまえるとするか、こいつの言うみんなも気になるしな……別にかいつと一緒にいたい訳ではない！

水『サンキュー、ついでに悪いんだけどさ、昼飯分けてくんね』

いけるか？

マ「うんいーよ、みんなパンだろーから？、2個ぐらいなら」

よしっ！

水『助かった。じゃ、待たしてもらうぜ』

？A「マリア先輩パン買ってきました」

？B「流石にこの時間は人がたくさんいますね」

？C「……疲れた……」

席に座った途端まだ幼さが残る少女の声が聞こえた

マ「お帰り三人とも、いきなりで悪いけどづっきーも一緒に食べる

ことになるけどいい？」

水『俺はパンを分けてもらえればそれでいいんだけど』

マ「だうめ、だってづっきーいつも五人囃子と一緒に居るじゃん？
それにこの子達も喜ぶしね」

五人囃子？……なるほど

？B「あのー先輩その人は誰ですか？」

マ「あれ？知らない？……そっか一年生だもんねづっきーはなんと
「柊水月」え？」

？A「この人のこと知ってるの実花？」

？CⅡ実「……前年度の生徒会長で全国模試第6位いつも高町なのは、フェイト・T・ハラオウン、八神はやて、月村すずか、アリサ・バニングスでハーレムを形成している………因みにめぐみの初恋の相手」

ハーレムってなにさ、あれがハーレム（男の夢）なら俺はいらん

？A「へーそうなんだ、お姉さん初耳だな」

？BⅡめ「な、な、な、な、な、あかり灯さん何言ってるんですか」

？AⅡ灯「いいじゃん別に、で、初恋の人との対面は？」

マ「三人とも盛り上がってるところ悪いけど、わたしお腹グーグー

鳴っちゃったな」

灯「すいません、めぐみが可愛くて可愛くて、柊先輩もこっただけで盛り上がっちゃって」

水『いや、構わないけど自己紹介してもらえるかな?』

灯「はい、1番 1－B 日野^{ヒノ} 灯^{アカリ}です」

め「に、2番 1－A 此花 めぐみ（コノハナ メグミ）です」

実「……………3番……………1－A……………立川^{タチカワ}実花^{ミカ}……………」

魔法少女三人娘とは違った意味でバランスのいい三人組だな

水『知ってると思うけど俺は3－A 柊 水月 よろしく』

第一印象が大事ということで自分的爽やかスマイルで右手を差し出した……………ニコポなんてむりだぞ

————Sideマリア・スプリース

こんにちはみんなのアイドル、マリアちゃんだよ

ちなみに自己紹介するタイミングがなかったからいまするね、2－

Cのマリア・スプリース現生徒会長で☆す

さて視点が私に代わってるかというとね

灯「ほらめぐみチャンス、柊先輩にあーんってやりなよ」

め「え、え? ? ?」

実「……………あーん」

水『いや、要らないから、ね』

灯「なんですか? こんな可愛い子のあーんなですよ、実花のですよ」

水『別に理由はないけど、立川は関係無いし』

実「……………あーん」

め「実花ちゃんって大胆」

ナニコノカオス

人の前でイチャイチャとしやがって砂糖吐きそう

早く終わらないかな……

♪♪キーンコーン カーンコーン♪♪
よしっ終わった

なに私のSideも終わりだと
まだしゃべりたりないで☆すよ

Side End

水『疲れた、三人寄れば姦しいってか、例の五人囃子で慣れたつもりだったんだけどな、人が違うと騒ぎ型も違うってことか?』

途中からマリアも参加し始めたから尚賑やかになってたな

ま、そんなこんなで放課後です

――――放課後――

な「ふーやっと1日終わりました、疲れちゃったの」

フ「今日は管理局にも行かなくていいし、あとは家に帰るだけだね」

は「つまり之からうちらは自由ちゅうわけやな。久しぶりに翠屋でも寄ってみようか?」

ア「私らはゴメンだけど塾があるからパス」

す「ゴメンね、みんな」

は「塾やったらしゃあないって、んじゃ途中まで一緒に行こうか? ええよな水月……水月? あれ?」

な「水月くんさっきまでここにいたのに」

フ「水月くんなら今先教室を出てったけど」

は「なに!! 急げ! 逃がすかうちらのサイフ」

ダダダダダ

な「ああ、追いつけなくちゃ、すずちゃん、アリサちゃん、また明日、いこフェイトちゃん」

フ「あ、まってよなのは。バイバイ二人とも」

す「行っちゃった」

ア「行ったわね」

? 「行ったか」

ア「ってなんであんたがここに居るのよ!!」

水「廊下で隠れてはやてが出ると同時に後ろからこっそりとね……
まあいいや俺も帰るわ、バイバイ二人とも」

ア「……………私たちも帰ろっか」

す「うん」

————商店街————

嫌な予感……………逃げてきて正解だったか？

水「なんつーか懐が枯れそうな」

大方はやてが翠屋のケーキを奢らされそうな、ニュータイプのな
逃げて来たけど後が怖いな

水『……………ヴィータにアイスでも買って帰るか』

あいつにあと始末頼むか

？「ん？水月じゃないか」

やばい！見つけたか？

逃げる準備しながら振り向くと

水『……………なんだシグナムか、助かった』

買い物カゴをもったシグナムがいた

シ「なんだとはなんだ、しかしその慌てよう何か用事が有るのか？」

水『ないけど、ただはやてから逃げてきたただけだ』

するとシグナムは納得したようで

シ「なら隙なのだな、よし買物に付き合え」

水『お、おい腕を引っ張るな、ツタ、わかったから腕を放せ』

すんなり放してくれてよかった

水『で、なにをかうつもりなんだ？』

シ「カレー粉、牛肉、りんご、他にはドッグフードにアイスだな」

水『今日の晩飯はカレーかきっさと買って帰るか』

その後俺とシグナムの二人で買物をしたわけだが特にイベントはなかった訳で強いてなら

――――回想――――

水『そう言えば二人っきりは久しぶりだな』

シ「そうでもないいつもは主はやてやヴィータが居るからな。どうしたんだ？いきなり」

水『いや、二人っきりだとデートみたいだなって』

シ「い、いきなりなにを言うんだ！第一お前と私では釣り合わないか」

水『そんなに向きになるなよ、ただ客観的な感想を言っただけじゃん、哀しくなるじゃないか』

シ「べ、別にそんな積もりで言ったんじゃない………
：私としてもそう見えるのはうれしいし」

水『すまん、なんて言ったか最後が聞こえなかった』

シ「お前が気にすることではない」

水『ん、わかった』

———

と、まあ何もなかった訳で今は八神の家でヴィータと一緒に格ゲーをしている訳で

「YOU WIN」

はいこれで俺の十連勝目

ウゝ「あゝあゝ、また負けちゃった、もう一回だもう一回」

水『もう止めようぜ。はやてが帰って来る前に帰りたいし』

ウゝ「なんだよ勝ち逃げは許さねーぞ」

水『これで最後だぞ……………はぁ』

ザ「柊、すまない」

水『別に構わないけど、目が痛いです』

「YOU WIN」

はい十一連勝

水『はい最後終わり。もうかえるぞ』

やっと帰れる

♪♪とくきを越え刻まれた悲しみの記憶♪♪

はやてからメールか

— F r o m 八神 はやて

— T o 柊 水月

— 題 …お願い

— ♪今日はフェイトちゃんと一緒に

— なのはちゃんの家泊まるから、

— みんなの晩御飯よろしく頼むで♪

— p. s. どうせうちの家におるんやろ

水『……………ばれてらっしゃる』

しあーない

水『はいヴォルケンズ集合』

一声でみんな集まる流石だな

シ「どうしたのだ？水月」

すまないなシグナム

ヴ「何かあるなら早くしろよな」

少しぐらい待てヴィータ

シャ「何かあったの？」

なぜエプロンをつけてるシャマル

ザ「……………」

特に何も無いぞザフィーラ

水『はやてからメールがきた、今日は高町家に泊まるそうだ』

ヴ「なんだって、ならあたしらの晩御飯は？」

シャ「私が縊りをかけて」「」「ダメだ」「」『…酷い』

水『心配するな、俺が作る』

さて誰かに手伝ってもらおうか

A, シグナム

B, シャマル

C, ヴィータ

D, ザフィーラ

第2話 新たなる出会い それなんてギャルゲ？（後書き）

選択肢に意味はない

もしAがいい Bがいいなど があるなら
感想をお願いします

期限は作者が閃くまで

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6644r/>

魔法少女リリカルなのは～チートが無いけどリリカルまじかる頑張ってみよう

2011年3月22日09時55分発行